



農の匠
福永昭子さん
(土山町北土山)

地元の食材は地域の誇り

農山漁村地域で育まれていたすばらしい技術や知識を持った人を認定する「農の匠」、活力ある地域作りのため、農業のあらゆる分野で活躍されています。

農産加工、郷土料理の匠として活躍される福永昭子さんは、地元食材を使った料理の開発や講習など、地元食材の普及のため様々な活動を展開されています。



「地元の食 ▲地元食材を使った料理講習で講師を務める福永さんは安全で安心、そして地域の誇りです。そんな食材の良さをもっと知ってもらいたいです。」と話す福永さんの食育の活動は、約20年にも及びます。

甲賀の貴重な食文化を継承する地域に根ざした料理本として、平成4年から今までに5巻が発刊された「ふるさと甲賀七彩(いろ)ものがたり」、地元食材の歴史や栽培方法、レシピなどが詳しく書かれています。福永さんは当初からこの本の編成に関わり、現在「ふるさと甲賀七彩ものがたり研究会」の会長でもあります。

そのグループの活動として、3月には土山地域の保育園児に、地元産のお茶、いちご、牛乳を使った「チャチャゼリー」をプレゼント、小さい時から地元の食材に触れることは大切なことと、約15年前から続いています。

農業以外の分野でも積極的にボランティア活動をされ、大忙しの毎日だそうです。「いろんな方面で活動するといろんな方と知り合いになることができます。人とのふれあいや相手の喜ぶ顔が私自身のパワーになります。つらいと思ったら続きません、無理をしないで人とのふれあいを楽しんでいきたいです。」とむしろ忙しい日々を楽しむ福永さん。忙しい日々はまだまだ続きそうです。

多彩な作品集まる

第4回甲賀市美術展覧会

第4回甲賀市美術展覧会が2月28日から3月8日まで、あいこうか市民ホールと碧水ホールで開催されました。

立体・書・平面・工芸・写真の5部門に、市内外から275点の応募があり、審査により入選した263作品が展示されました。多彩な作品が館内を彩り、来場した人たちは、時がたつのも忘れて力作に見入っていました。各部門の甲賀市長賞受賞者は次の皆さんです。(敬称略)

- 立体 渡辺 耕造 「PLAY」
- 書 直居 姫歩 「李勝原詩」
- 平面 望月 富美子 「まだかなあ…」
- 工芸 今村 喜美子 「風声」
- 写真 廣田 良二 「立ち話」

また、3月1日には、立体部門ワークショップ「自然の素材で作ろう!」を開催、12人が参加しました。立体部門の実行委員の指導のもと、木の枝などを使って大きな家を作り、出来上がった作品は期間中ロビーに展示されました。



▲多くの力作が並んだ展示会場

感謝と希望を胸に

～市内小中学校で卒業式～

市内の小中学校で卒業式が行われ、小学校では995名の児童が、中学校では948名の生徒が友達との思い出が詰まった学び舎を巣立ちました。甲南中学校の卒業式には中嶋市長が出席、旅立ちを祝いました。

慣れ親しんだ友達や学校と別れるのは寂しいことですが、卒業生の皆さんには、新しい世界で輝かしい未来が待っています。今まで過ごしてきた学校生活で得た大切なものを活かし、これから光り輝く未来に向けて、努力を積み重ね羽ばたいていくことを願っています。



▲甲南中学校の卒業証書授与式

市内の文化、芸能が集合

～甲賀市文化協会連合会芸能祭～

市内5地域には、文化、芸能の分野で活動される団体の、相互の交流や自主的な活動を進めるため、文化協会が設立されています。

3月8日、同文化協会が構成される甲賀市文化協会連合会主催の芸能祭が、あいこうか市民ホールで行われました。

同芸能祭は、今年初めて企画されたもので、この日は、各協会から3団体ずつ15団体が発表を行いました。

ステージでは、市内全域の文化、芸術が集まったとあって、多種多様な発表が繰り広げられ、終始歓声や拍手が響き渡る芸能祭となりました。



▲さまざまなジャンルが発表されたステージ

災害に強い地域づくりを

～自主防災組織育成助成事業に甲南町下馬杉区～

自主防災組織が行う防災活動に必要な施設や設備を整備する「自主防災組織育成助成事業」に、甲南町の下馬杉区が助成を受けました。

この事業は、コミュニティの健全な発展と宝くじの普及広報を目的に、宝くじの収益金の一部を助成されるものです。

下馬杉区の自主防災組織は今回の助成により、災害時に対応できる資機材等を購入され、活動範囲を広げておられます。今後も地域防災力の向上に積極的な活動が期待されます。

びわこ京阪奈線(仮称)を実現しよう!

びわこ京阪奈線は、米原から湖東、東近江および甲賀市を経由し、京都南部に至る鉄道建設構想です。

近江鉄道と信楽高原鐵道のヘッドマークデザイン募集で、貴生川小学校5年生の杉山桂さんの作品が優秀賞に選ばれました。

この募集は、県内小学5、6年生を対象として、鉄道に親しみ沿線地域のマイレール意識を高め利用促進につなげることを目的に実施されているもの。応募総数214点の中から杉山さんの作品ほか4点が優秀作品に選ばれ2月28日に近江鉄道の八日市駅ホールで表彰式が行われました。

「こんな電車があったらいいな」をイメージして描かれたこれらの作品は、近江鉄道および信楽高原鐵道の列車に取り付け運ばれます。



▲優秀賞に選ばれたヘッドマークを前に杉山さん

児童デザインのヘッドマーク、鉄道を走る

びわこ京阪奈線(仮称)鉄道建設期成同盟会